

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報
第9号(20100205)
発行 竹田幸男



同好会ニュース

2月例会の開催

今月は3月に迫った作品発表会が予定通り開催できるかどうか、作品の質を検討することになっていたが、審査の結果、かろうじてGOが出ました。

その他、2月の寝屋川市映像協会、映像北大阪との交流会、4月の撮影会の準備等、多彩な活動についての審議が進みました。

例会の窓

平成22年2月例会

日時 平成22年2月5日
13:30～17:00

場所 寝屋川市民活動センター
(市民会館4F) 子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 谷 田淵(9名)
欠席者 竹下(50音別 敬称略)

例会次第（今回の要約 竹嶋氏）

1．岡山 大原宿「ひな祭り撮影会」の打ち合わせ

撮影タイムスケジュール（案）の検討

現地でお世話になる高井さんに立案頂いた内容を基に討議。

第1日目：

- ・ひな飾りの準備風景の撮影を最優先(1時間以上)とする。
- ・その後「智頭宿」(撮影散策)へも行く。
- ・夕食は先方のひな祭り保存会のメンバー(7名)さんとの交流会を兼ねて行ない、取材もさせて頂く。(注)基本は原案通りです。

第2日目：

- ・朝食後2時間程度(10:00まで)をフリータイムとする。
各自自由散策、界隈の撮影など。(場合により武蔵関連の撮影)
 - ・大原宿「ひな祭り撮影会」の本番に時間をかける。
(10:10開始～西粟倉村での昼食をはさんで16:00頃まで)
- (注)提案頂いた「平福宿」は今回は割愛してひな祭りを重視する。

京阪「寝屋川市駅」からの出発・帰着時刻

- ・当初予定より30分ほど繰り上げて集合する。
大阪10:00発の新快速は春休みで混雑が予想されるため。
正式の集合時刻は梶本さんが調べて次回例会時に決定する。
- ・帰りは当初案通り大原16:09発～寝屋川市19:19着。
- ・乗車切符は事前に各自が購入することとする。

2．竹田会長からの報告

- ・竹下さんの近況紹介。早期の体調回復を祈念しています。

3．作品映写

「定年を迎えた岩夫さんへのビデオレター」：5分 竹嶋

出た意見：制作者の挨拶だけで終わっており、ビデオ作品となるかは疑問。

主人公（定年者）を中心として、その生い立ちとか仕事風景とかの静止画があればよかった。(現状、作品としての改定が困難につき本編は出品しない)

「若狭路の旅」：9分18秒 石田さん

出た意見：全編を通してのクラシック音楽のBGMは、音量レベルの大小や画面の雰囲気との調子合わせが難しい。現場音との兼ね合いでうるさく感じたり、楽しさや物寂しさなど、合わない部分が出て来る。

途中で音楽のレベルを下げる、内容に合わせてポピュラーな曲にする、など工夫が望ましい。

画面に出るテロップ説明が少し頻繁。ナレーションの方がいい。

「三室戸寺」(ハス酒を楽しむ): 7分26秒 新井さん

出た意見: 「終」の時の音楽の終わり方がいい。

三室戸寺の看板が上下するのは一方通行にしたほうがいい。

最初のタイトルの時間が短い。

「三室戸寺」(通季版): 8分34秒 新井さん

出た意見: つなぎのスタート場面が揺れる現象が2~3ヵ所あり。

題名(タイトル)に味を付けたらどうか。例えば「卯月から文月の・・・」

など、季節の移ろいを感じさせるようなタイトルがいい。

季節の変わり目が明確にわかるように「つつじ」「あじさい」

「ハス」の部分でトランジションで区切りを付けるなどの工夫をされては。三室戸寺の看板が何回も出過ぎと思う。

「オーストリア アッヘン湖」(ミニSLの旅): 6分23秒 谷さん

出た意見: 色がとてもキレイでよい。ナレーションもよい。

パラグライダーが飛んで行って大 小になって行く過程で瞬間場面が飛ぶところがある。トランジションを使ってスムーズにされては。

「私の無常感と白昼夢」: 9分26秒 小笠原さん

出た意見: 今までにない異色の作品に仕上がっている。

最後の「完」は、その前のテロップと離す、出だしをフェードイン・フェードアウトでもう少し工夫をするなどしては如何。

「鑑賞ありがとう・・・」は不要ではないか。紙芝居のようになってもったいない。

テロップスクロールとナレーションのポジションを合わせるほうがいい。

またテロップ文字が見にくい所がある。白文字で輪郭や影を付けるなど見やすくしてはどうか。

音声にビビリ音が出て気になる。

「イエローストン・マンモスホットスプリングスの巻」

: 9分11秒 竹下さん

出た意見: 20年という年月が景観を大きく変えたということがよく出ている。最後の終わり方がプツンと切れる。フェードアウトでスムーズに終わるほうがよい。

「北野天満宮」：6分7秒 天野さん

出た意見：雪の雰囲気がよく出ている。ナレーションが改良(ハイアップ)されてよくなった。

「京都東山 花灯路」：5分30秒 天野さん

出た意見：終わりの方の場面で満月が出て来るが、これで終わりかと思われるのでつなぎ方に工夫を。

「東映太秦映画村」：8分17秒 天野さん

出た意見：出演者の説明の部分が聞こえにくいので文字にしてテロップを入れてはどうか。場面・場面の補足も入れるなどすると、もっとわかりやすくなってよいのではないか。

4. 「映像同好会ビデオ作品発表会」への出品作品

今日映写した作品（1編を除く9作品）と竹田さんの2作品を加えて計11作品を出品することになった。

・注意事項として、

タイトル(題名)の始まる前の画面は青または黒バックでちょっと区切りをして欲しい。

作品の「スタート点」とは、最初に音が出るとか、文字または映像が出た点のうち最も早い点とする。

「終了点」は「終」などの文字が消えた点、映像が完全に消えた点、または音声が消えた点のもっとも遅い点とする。

このスタート点と終了点との間の時間を測り、これが作品の時間であるが、プログラムには「29秒捨、30秒入」した時間を作品の時間として記載する。

発表会プログラムを作成するので、各自の作品の30字以内の「要約」を竹田さん宛て Eメールにて届けることになった。(2月11日まで)

2月20～25日には完成して竹田さんから田淵さんに提出。

発表会当日のスケジュール・役割分担などは次回例会時に検討する。

5. 映像北大阪・寝屋川市映像協会との交流会

・2月28日(日)13:00～ 於：総合センター4階 視聴覚室

・当同好会から3作品を紹介する。

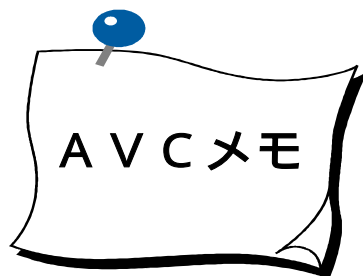
谷さんの「アッヘン湖」 小笠原さんの「白昼夢」 天野さんの「花灯路」

・参加予定は、天野・新井・石田・小笠原・竹田・谷さん+田淵さん(保留)

・終了後に懇親会を予定。

6 . 次回例会

- ・ 3月12日(金) 13:30 ~ 於: 市民会館 4階予約
- ・ ビデオカメラ担当: 新井さん



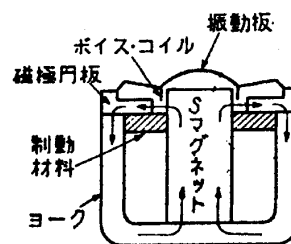
マイクロホン

竹田 幸男

ナレーションに欠かせないのがマイクロホンです。音が入れば何でもいいと考えられるかもしれませんが、種類と、使い方をよくマスターしないと、せっかくのナレーションも生きてきません。

マイクロホンは音声エネルギーを電気エネルギーに変える装置で、電気を発生する原理によっていろいろのものがあありますが、プロ用のものや、今はあまり使われていないものなどは省いて、いま、最も一般的な2種類・・・ダイナミック型とコンデンサ型についてお話ししましょう。

図1はダイナミック型の構造略図で発電部分である「ユニット」の断面図を示します。軟鉄でできた「ヨーク」と磁極円板の中に、永久磁石でできた「マグネット」をおいて矢印のような磁力線を発生する磁気回路を構成し、磁気回路の途中の「ギャップ(空隙)」のなかに銅、アルミなどの細い導線をリング状に巻いた「ボイス・コイル」を置き、コイルを金属やプラスチックで出来た「振動板」に固定します。

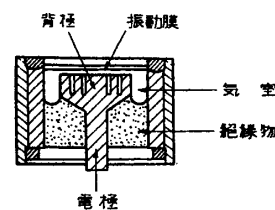


ダイナミックマイクの断面図

(図1)

音波がマイクロホンに入ると、この振動板が振動し、同時にコイルがギャップの中で振動すると、磁力線の中でコイルという導体が動くことでコイルの中に振動に応じた微弱な電流が発生します。この微弱な電流を増幅器に入れて増幅することで録音したり、またスピーカーから発声させることができます。

図2はコンデンサ型マイクロホンのユニットの断面図を示します。「背極」に接近して金属の薄膜や金属を蒸着したプラスチックの「振動膜」をピンと張ってある単純な構造です。背極と振動膜との間に高い電圧をかけ、音波によって振動膜が振動すると、背極と振動膜間の距離の変化が静電容量の変化をもたらし、これによって微弱な電流が流れ、この電流を増幅器で増幅することによって音声電流を取り出します。一般用のコンデンサマイクロホンとしては背極と振動膜との間



コンデンサマイクの断面図

(図2)

に高い電圧をかける代わりに、背極に電位を発生させるエレクトレット物質を配した「バックエレクトレット・コンデンサマイクロホン」が使われています。

このような構造の違いは、音質にどのように関わってくるのでしょうか。ダイナミックマイクロホンは振動板が磁極円板に止められています。振動板にさわるとわずかな力で撓みます。そこで、外部から加わる音圧がなくなっても振動板の振動が続き、余韻が残るような気がしますね。実際ダイナミックマイクロホンの音質は柔らかく、人の声を収録するのに向いています。カラオケに使われるのはすべてダイナミックマイクロホンです。

それに比べてコンデンサマイクロホンの振動膜はピンと張り詰めて止められているので、音圧がなくなったら短時間に振動が止まってしまうような気がしますね。実際コンデンサマイクの音は堅く感じます。

これらのことから静かな、柔らかな雰囲気を出したい風景のようなナレーションにはダイナミックマイクロホンがいいでしょうし、ニュースとかドキュメンタリーのようなシャープなクリアな雰囲気を出したい場合はコンデンサマイクロホンがいいでしょう。

ダイナミックマイクロホンの構造はスピーカーとよく似ています。電源は不要です。アンプの出力をマイクロホンに入れたら音が出た、という人もいますが、壊れる恐れがあるからこのようなイタズラはやめましょう。コンデンサマイクロホンは電源が必要です。

ここまでは発電形式の違いについて考えてみました。次に「指向性」について考えます。マイクロホンには、どのような方向からの音も同じように拾う「無指向性」、一方からの音を重点的に拾う「単一指向性」、一方とその反対方向からの音を重点的に拾う「双指向性（8の字型）」などがあります。一般に多く使われているのは「単一指向性」であり、カラオケや講演などではスピーカーからの音を拾って「キーン」という音（ハウリング）を出しにくくするためによく使われます。ビデオカメラの場合も、カメラに写る前方の音をよく拾う方が自然なので単一指向性がよく用いられます。単一指向性は原理的にマイクから離れると低音が出にくくなり、近づくと低音がよく出るようになります（近接効果）。歌手などがマイクを離したり近づけたりするのは音量の調節だけでなく、このような効果も考慮に入れてのものと考えられます。無指向性にはこのような効果はなく、低音から高音まで均一に特性が伸びています。

ビデオカメラ用には単一指向性をさらに進めた「超指向性」というものがあり、感度も高く、遠くの鳥の声などを捕らえるときに好適です。しかし近くの大きな音を捕らえるときは音がつぶれたりしますので、注意して使ってください。一般的にモノラルであることも注意を要します。

ビデオカメラに付いているマイクロホンはコンデンサ型で単一指向性です。一般に低音が出にくく、その上にテープ駆動、ズーム、ピント合わせなどのモーターなどの内部騒音を少なくするため低音を押さえていると考えられるので、キンキンした音が録音されます。祭りのお囃子、街の騒音、川や滝の音、女性のおしゃべり、などは相当やかましく感じます。撮影したテープ（またはファイル）をそのまま編集するのではなく、やかましいと感じる音源の音はレベルを下げてやることも大切な編集作業であり、作品の完成度を高めるものであることをよくご理解ください。 ■